

<2016. 4. 29>

**島根原発の再稼働を認めない！
県民署名大行動を推進する各界団体・地域代表者会議
(会議への報告と討論のまとめ)**

島根原発・エネルギー問題県民連絡会

1. 『県民署名大行動』の実施計画について

- 1) 署名タイトル：『原発事故を繰り返すな！島根原発の再稼働を認めないください』
署名（略称：ストップ再稼働署名）。要請先：島根県知事と松江市長宛て。
- 2) 直接の目標：島根原発2号機の再稼働に限定し、これを認めない世論の意思表示。
 - *その影響は、島根3号機の稼働、全国の再稼働・新規建設に及び、エネルギー政策転換の展望につながることを期待される。
 - *これまでの再稼働中止は裁判所の判決であったが、初めて地方自治の力で。

2. 今回署名の内容と特長、狙いについて

- 1) 世論の状況から見ても、幅広い県民の支持と署名への賛同が可能。
 - ・再稼働「反対」：「賛成」：日経「反対」60%、TV朝日52%:30%、毎日53%:30%。
 - ・再稼働「反対」者だけで50~60%になる。更に再稼働「賛成」者も自分と家族が逃げられない避難計画では、「安全な避難計画ができるまで再稼働は待て」で署名に同意する可能性は十分ある。この署名は、原発賛成・反対でなく、署名内容の「再稼働反対」で合意することが大切。
- 2) シミュレーション：島根県全域に避難勧告！ この臨場感を全県民で共有が大事だ。
学習・講演会、広報のあり方を工夫しよう。
- 3) 狙い：原発賛成の人にも再稼働阻止署名してもらおう。
 - ・ポイントは、①適合審査は安全審査でない（田中、HP）。
②避難問題と、③使用済核燃料の処理。
 - ・島根原発の避難計画の実効性 なし⇒原発賛成者も「再稼働は待て！」に。
- 4) *4/29の会場で、再稼働をやめさせた後の展望をアピールする必要がある、との意見があった。極めて重要な指摘であり、チラシその他で補強していく。

3. 「大署名行動」について

- 1) 署名の目標数、**県内30万筆**（県内有権者58万人の過半数）+県外署名
 - ・中電と協定している松江市はじめ30キロ圏内の出雲・安来・雲南の4市は、署名の重点地区。知事の行動を規制するには全県の声も重要。
 - ・(4/29会場発言を受けて)市町村別に集計し、県会議員選挙区毎の筆数も分かる。次期選挙を考えたら再稼働賛成で動けない政治状況づくりを目指したい。この総和が、県議会を「再稼働不同意」に導く。地域毎の有権者数と署名目標、その目的意識的追求が、各地域での署名行動の目安と推進力になる。

- ・署名推進の最大の決め手は、署名を呼びかけ集める「署名取扱者」の人数の拡大。
平均1人が10筆⇒「署名取扱者」を3万人（≒有権者20人に1人）に広げる。
この基準を参考にして、各市町村（更に旧市町村）ごとに、「署名取扱者」の最低必要人数を設定し、実現を目指す。
 - ・誰でも気軽に参加できる署名運動に。初めて署名集めをする人を広げる。
- 2) 学習を広げ、継続的に世論喚起
 - ・学習・講演会 小泉純一郎元総理、嘉田由紀子前滋賀県知事、など。
 - ・*4/29の会場で「放射能についての学習会」が必要との意見があり、実現したい。
 - ・公開質問で論点の明確化。連続して知事、松江市長、30キロ圏市長、国地方議員。
 - 3) 県内各地域・ブロックにおける学習・講演会の開催
 - ・地域連絡会等の計画を尊重し、県連絡会が協力して、5～6月から順次開催。
 - 4) 大署名の期間と節目の集約
 - ・初めから最終期限を設定しない。情勢と状況を見て相談させてもらう。
 - 当面の中間集計は、6月末、8月末。
 - 4) 街角ポスター、住宅・自動車ワッペンなど必要なグッズの意見、アイデア募集。
 - 5) 行動には資金が必要。目標目安は450万円程。個人とともに協力団体に寄付をお願いしたい。

以上

(V2.1)